

第五十九回
帝國議會
貴族院

地租法案特別委員會議事速記錄第三號

昭和六年三月十三日(金曜日)午後一時四十七分開會

○委員長(伯爵柳澤保憲君) 委員會ヲ開キ

マス、井上男爵

○男爵井上清純君 昨日ニ引續イテ海軍大

臣ニ御尋ヲ致シタイノデアリマスルガ、此
度ノ減稅案ヲ審議スル上ニ於キマシテ、其
財源ノ關係カラ今回ノ倫敦條約ノ兵力量ニ
於テハ、如何ナル國防上ノ缺陷ヲ招致シタ
カ、又其缺陷ハ今回御提出ノ所謂第一次補
充計畫ヲ以テ完全ニ滿タシ得ルデアラウカ、

第二次補充計畫ノ必要程度ハ如何、第一次
第二次補充計畫ノ關係如何、是等ノ事柄ヲ
先ヅ以テ明確ニシテ置カナカッタナラバ審
議ハ不可能ダト考ヘマス、先決問題トシマ
シテ、先ヅ倫敦條約ノ事柄ニ付キマシテ十
分ニ御尋ヲシナケレバナラヌカト考ヘルノ
デアリマス、此點ニ付キマシテハ過日海軍
大臣ガ豫算委員會ニ於テ某氏ノ質疑ニ答ヘ
ラレタ一節ガアリマシテ、最モ詳細ニ其關
係ヲ説キ盡サレテ居ルト思ヒマス、ソレヲ
讀上ゲマスコトガ時間節約ノ上ニ於テ最モ
適當ダト考ヘマスカラ、其海軍大臣ノ御言
明ヲ速記錄ニ依リマシテ、サウシテ御尋ヲ

シタイト考ヘルノデアリマス、豫算委員會
議事速記錄第三號ノ五頁デアリマス、此度
ノ倫敦會議ニ於キマシテ帝國ノ主張イタシ
マシタ所謂三大原則ト云フモノ、是ハ總括
的對米七割、ソレカラ最モ重キヲ置ク八吋
砲巡洋艦ノガ矢張り七割、ソレカラ潜水艦
ノ現有量ノ七千七百八噸ト云フモノ、之
ヲ主張イタシマシタノハ矢張り我が帝國海
軍ニ於キマシテ數年來ノ演習其他各種ノ研
究ノ結果、國防方針ニ基ク作戦計畫ヲ遂行
スル上ニ於テ最モ有效デアリ、經濟的ノ兵
力デアルト云フコトニ到達イタシマシタ、
其信念ヲ以テ臨ミマシタ所ガ、御承知ノ通
リノ倫敦會議ノ結果トナリマシタニ付テ、
兵力量全體トシテハ七割アルノデアリマス
ルカラ不足ハナイノデアリマス、其總
括ノ中ニソレゾレ必要ナ兵種ガアル、其兵
種ノ中デ我が帝國ノ要望スルモノニ到達シ
ナイ、ソコニ不足ガアル譯デアリマシテ、
其以外ノ驅逐艦、六吋砲巡洋艦ト云フモノ
ニ、其代リニ噸數ノ餘裕ヲ生ジタノデアリ
マス、ソレヲ以テ他ノ不足モ或程度マデ補
フコトガ出來ルノデアリマスルガ、全部全
ク補フト云フ意味ニハナラヌノデ、ソコニ

若干ノ不足ト云フコトガ生ズルノデアッテ、
併シ其若干ノ不足ナルモノハ各種ノ對策ヲ
講ズルニ於テハ之ヲ補フコトガ出來テ、從
テ當面ノ狀態ニ於テ國防上不安ナキヲ期シ
得ルト云フコトガ、海軍首腦部ニ於テモ意
見ガ一致イタシマシタノデアリマス、ソレ
ニ基イテ立テマシタノガ此度ノ計畫デアリ
マス、此度ノ計畫ト云フモノハ、毎度申シ
マシヤウニ、必要トスルモノノ根幹ヲ具ヘ
マシタモノデ、是デ以テ國防ヲ大體ニ於テ
不安ナイモノト認メテ居ルノデアリマスル
ガ、併ナガラ之ニ此度ハ絕對必要ナモノノ
ミヲ集メマシタノデアリマスルカラシテ、
ドウシテモ相當ノモノモ尙ホ必要トスルコ
トハ是ハ申ス迄モナイノデアリマス、從テ
ソレガ第二次計畫トシテ自然現ハレルヤウ
ニナリ、倫敦條約ニ於テノ權利モ相當拵ヘ
テ宜イモノガアルノデアリマス、是ハ外國ノ
海軍ノ製艦ノ現狀ガドウ云フ程度ニ、又ド
ウ云フ種類ノモノニ重キヲ置イテ進ンデ行
クカト云フコトヲ見テ、ソレモ願ミテ追テ
計畫ヲ立テ、從テ其時期内容ト云フヤウ
ナコトハ今日確定的ニ申上ゲル譯ニ行カヌ、
斯ウ云フ意味ニナル次第デアリマシテ、所

謂第二次計畫ノ必要デアルト云フコトハ、
ソレガ又十一年度以前ニ於テ著手シナケレ
バナラヌト云フ意味ノコトハ、其通りニ信
ジテ居リマス」云々、是ハ貴衆兩院ヲ通ジ
マシテ海軍大臣ノ御答辯中、最モ詳細ニ此
意味ヲ申述ベラレテ居ル要項カト考ヘマス
ル、此御聲明ニ依リマスルト、倫敦條約ノ
兵力量ハ如何ナル缺陷ヲ招致シタカト云フ
コトモ明瞭ニ認メラレルノデアリマス、即
チ海軍大臣ノ御言葉ヲ借りテ申シタナラバ、
三大原則ト云フモノヲ我國ハ主張シタノデ
アルケレドモ、總括的七割ニ於テ目的ヲ達
スルコトガ出來タガ、八吋砲巡洋艦ハ六割
トナリ、潜水艦ノ現有量ノ七千七百八噸
ヲ主張シタガ、ソレガ五万二千噸トナリ、
約三分ノ一減ヲ示シタノデアッテ、是ハ總括
的ニハ我が要求ニ到達シタケレドモ、配合、
按配サルル所ノ兵種……兵器ノ種類ニ於テ
兵力量ニ不足ヲ來タシタカラ我が既定國防
方針、是ハ大正十二年ニ制定サレタル所ノ國
防方針デアラウト考ヘマスルガ、其ノ國防
方針デアラウト考ヘマスルガ、其ノ國防方
針ニ基ク作戦計畫、其ノ作戦計畫ナルモノ
ハ數年來ノ演習其他ノ各種ノ研究ノ上ニ於

テ確立サレタ所ノ作戰計畫ヲ維持遂行スル上ニ於テ一番有效デアリ、經濟的ノモノデアッテ、其ノ兵力量ニ不足ヲ生ジテ來タノデアル、敢テ國防ノ缺陷ト云フ言葉ハ用ヒラレマセヌガ、作戰計畫ヲ遂行スル上ニ於テ兵力ノ不足ヲ持チ來タシタモノデアルト云フコトヲ申述ベラレテ居ルノデアリマス、サウシテ其ノ斯ク編成サレタ所ノ兵種ノ不足ハ、其ノ以外ノ驅逐艦、六吋砲巡洋艦ト云フヤウナモノデ補フコトガ出來ルカト云フト、或程度マデハ補フコトガ出來ルケレドモ、全部全ク補フト云フ意味ニハナラヌノデアリ、斯ウ申サレテ居ルノデアリマス、ソコニ若干ノ不足ト云フコトガ生ジテ來テ居ルノデアリ、併ナガラ其若干ノ不足ト云フモノハ色ミノ對策ヲ講ジテ之ヲ補フコトガ出來テ居ル、其對策ト云フモノハ今度ノ第一次補充計畫ノ中ニ含まレテ居ルモノデアリマシテ、即チ制限外ノ艦艇ノ建造、航空兵力ノ造成並ニ充實其他内容ノ充實ト云フヤウナモノヲ指シテ言ハレテ居ルモノダト考ヘマスルガ、ソレ等ノ對策ヲ講ズル上ニ於テハ之ヲ補フコトガ先ヅ出來ル、國防上不安ナキヲ期シ得ルト云フコトガ海軍首腦部ニ於テモ意見ガ一致シタノデアリ、ソレニ基イテ出タノガ此度提出シタ所ノ第一

次補充計畫デアリ、即チ此計畫ナルモノハ毎度申スヤウニ、絕對必要トスル所ノ骨幹ヲ備ヘタモノデアリ、之ヲ以テ國防ハ大體ニ於テ不安ナイモノト認メテ居ル次第デアリ、併ナガラ是ハ絕對必要モノデアッテ、ドウシテモ相當ノモノガ尙ホ此以上ニ必要トナルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、第二次補充計畫ダケデハ足ラナイノデアリマス、此上ニ尙ホ必要トスルモノガアルコトハ申ス迄モナイト云フコトヲ言ッテ居ラレルノデアリマス、從ッテソレガ第二次計畫トシテ自然現レルヤウニナッテ來テ居ル、而モ倫敦條約ヲ見ルト第一次計畫ニ脱ケテ居ル權利ガマダ殘サレテアルノデアリ、此權利ヲ全部行使スルナラバ宜シイノデアリケレドモ、今直チニ行使シナイ所以ノモノハ、外國ノ海軍ノ製艦ノ現狀アタリヲ見テ、サウシテ追テ計畫ヲ樹テテ、從ッテ其時期内容ト云フコトハ今日確定的ノモノデハナイカラ……ナイガ併ナガラ此所謂第二次計畫ト云フモノガ、十一年度以前ニ於テハ必ズ著手シナケレバナラヌモノデアルト云フコトヲ委シク述ベラレテ居ルノデアリマス、尙ホ海軍大臣ハ過日、衆議院ノ豫算分科會ニ於テモ、最モ此意味ヲ簡明ニ次ノ如ク述ベラレテ居リマス、昭和十一年十二月

三十一日マデニ殘餘ノ條約上ノ造艦權利ヲ行使スルト云フ希望ト必要トヲ認メル、但シ其希望、其必要ヲ如何ナル形ニ於テ如何ナル年度ニ於テ現ハスカト云フコトニ付テハ熟シテ居ラヌ、ケレドモ條約ノ期限ハ昭和十一年十二月三十一日ニ切レルノデアリカラ、ソレガ切レタナラバ條約ノ效力ガ無クナル、其以前ニ於テ之ヲ著手シ實行スルノ必要ト希望トヲ有ッテ居ルト言明セラレテ居ルノデアリマス、此言明ヲ幣原總理大臣代理ハ肯定サレルカト云フ質問ニ對シマシテハ色ミ躊躇サレタノデアリマス、約一時間ノ休憩中ニ臨時閣議ヲ開カレテ遂ニ是認セラレテ居ルノデアリマス、井上大藏大臣モ亦之ヲ是認シテ居ルノデアリマス、以上ノ事柄ニ依リマシテ政府ハ第二次補充計畫ヲ實現スル所ノ希望ト必要トヲ有ッテ居ラレルノデアリマス、併ナガラ財源ハ無イノデアリマス、何故ニシテ財源ヲ保留サレテ居ラヌカト云ヘバ、其計畫ノ著手時期ト計畫ノ内容トガ不明デアリカラ、財源ヲ取テ置カナイダケデアルト云フ御答デアリヤウデアリマス、時期ガ不明デアルト言ハレテ居リマスルガ、十一年度末迄ニ竣工シ得ルモノニハ大部分屬シテ居ルノデアリマシテ、主ナルモノハ十一年度末迄ニ竣工シ得

ルコトニナッテ居ルノデアリマシテ、且又次ノ會議ハ十年ニ開カレマスコトニナッテ居リマスルカラ、晚クモ昭和九年ニハ第二次計畫ハ著手サレナケレバナラヌコトハ明瞭デアラウト考ヘマスル、又内容不明ト言ハレテ居リマスルガ、之ニ付テハ過日本會議ノ席上ニ於テ、海軍大臣ハ次ノヤウニ言明サレテ居ルノデアリマス、貴族院速記録第十四號ノ百六十八頁ニ書イテアルノデアリマス、此度ノ計畫ニ於キマシテ、條約上ノ權利トシテ、巡洋艦モ潜水艦モ殆下全部ヲ行使イタシマシタガ、獨リ驅逐艦ハ六隻分ダケ殘シテアルコトニナッテ居リマス、ソレカラ航空母艦、ソレハ華盛頓會議ニ依テノ關係デアリマシテ、二万二千噸程殘ッテ居リマス、ソレカラ倫敦條約ニ於テ、特別ニ我が日本ノ爲ニ權利ヲ得マシタ機械水雷ヲ敷設スル五千噸ノ船一隻分殘ッテ居リマス、以上合計二万八千噸ニナルノデアリマス、ソレカラ十一年度以前ニ於テ竣工スルコトハ出來ナイガ、著手シテ宜シイ噸數ガ巡洋艦、驅逐艦、潜水艦ヲ合セテ三万二千九百噸アルノデアリマス、ソレ等ノモノニ對スルノヲ所謂第二次補充計畫ト申シテモ宜シイノデアリマス、斯ウ仰セラレテ居ルノデアリマス、政府ハ既ニ第二次計畫ノ希望ト必要

ト有シ、其著手時期ト其内容ハ最早明瞭ニナツテ居ルト考ヘルノデアリマス、而モ其費用一億數千萬圓ニ上ルベキ國防計畫ヲ二三年先キニ見ナガラ、同額ニ略、等シイ所ノ減稅ヲ財源涸渴セル時ニ斷行セラレムトスル勇氣ニハ、私ハ驚カザルヲ得ナイノデアリマス、第二次計畫ヲ實施シナイト言明セラレラバ兎モ角デアリマス、既ニ其希望ト必要トヲ認メ、其上ニ仄聞スル所ニ依リマスレバ、右第二次計畫ニ付テハ責任ヲ以テ必ズ實現スルト云フ濱口首相ノ捺印アル覺書ヲ差出サレテ居ル點カラモ、必ズ實現セラレルモノデアラウカト思ヒマス、第二次計畫ヲ實施スルヤ否ヤハ減稅案審議ニ當リ直接重大ナル關係ヲ持ツト考ヘマスカラ、之ニ對シ海軍大臣ヨリ御明答ヲ得タイ次第デアリマス

○國務大臣(男爵安保清種君) 井上男爵ニ
御答ヲ申上ゲマス、井上男爵ハ箇條ヲ先ヅ四箇條擧ゲラレマシテ、兵力量ノ缺陷……倫敦條約カラ來ル所ノ兵力量ノ缺陷ト云フモノハドウ云フモノデアアル、或種ノ兵力ニ缺陷ガアルト云フノハドウ云フモノデアアル、第二ニ如何ニシテ此缺陷ヲ補ヒ得ルノデアアルカ、第三ハ其處ニ第二次計畫ト云フモノハ必要デアアルカ、其必要ノ程度ハド

ウ云フモノデアアルカ、第四ガ第一次計畫ト第二次計畫ト云フモノノ、關係ハドウ云フ風ニナルノデアラウカト云フ、斯ウ云フ四ツノ事ニ付キマシテ、之ヲ今日マデ私ガ貴族院並衆議院ニ於キマシテ、アチコチデ申述ベマシタコトヲ綜合イタサレマシテ、只今要點要點ヲ御讀上ゲニナツテ、之ヲ御取纏メニナツテ結局、減稅案ト關係ヲシテ、晚クモ昭和九年マデニハ第二次計畫ニ著手シナケレバナラヌモノデアラウ、而シテ其内容ハ不明デアルト言フケレドモ、倫敦條約ノ權利カラ言フテモ、是レノモノガマダ著手セズニ殘シテアル、又千九百三十六年ノ末ニ於テ建造中デアアテ差支ナイ分量ガ三萬二千九百噸殘テ居ルカラ、内容ト云フモノモ略、明カデ、之ニ著手スレバ少カラヌ經費ノ要ルコトガ明カデアアルノニ、何故ニ一億三四千萬圓ノ此減稅ト云フモノニ贊成ヲシタラウカ、斯ウ云フ結局ノ御問ト了解ヲ致シマス、今マデ色々ノ機會ニモ申上ゲテ置キマシタヤウニ、倫敦條約ニ於テ著手シ得ベキ權利ノアルモノハ只今井上男爵ノ仰セニナリマシタ通りデアリマシテ、昨日モ水野サンノ御尋ニ對シテ御答ヘ致シマシタ、即チ骨幹トナルモノニ付キマシテハ網羅シテアル、必要ナモノハ網羅シテアルト

云フノハ、即チ今モ御讀上ゲニナリマシタ通り、巡洋艦ト云フモノハ殆ド全部ヲ行使シテ、潜水艦ハ殆ド全部ヲ行使致シテ、ソコニ驅逐艦ノ六隻ト云フモノガ餘シテアル、斯ウ云フノデアリマス、即チ其驅逐艦ト航空母艦ガ華盛頓關係デ一万二千噸程殘テ居リマスノト、ソレカラ五千噸ノ機械水雷、斯ウ云フノデアリマスガ、之ヲ如何ニ此權利ヲ行使スルカト云フコトハ、毎度申上ゲマスヤウニ、外國ノ海軍ガ自分デ有テ居ル其權利ヲ行使スル度合、又行使スルニ付キマシテモ、ドウ云フ點ニ重キヲ置イテ其行使ヲ實現シテ行クダラウカト云フヤウナコトヲ見極メルコトガ一方ニ於テ必要デアリ、他ノ方面ニ於キマシテハ、毎度繰返シマスヤウデアリマスケレドモ、技術ノ進歩變遷等ヲ能ク見極メテ、サウシテ勿論財政等モ之ヲ調節シテ決定ヲ致スト云フノデアリマス、ソレデ權利ヲ全部行使スルモノト云フ意味ニハ必シモ考ヘテ居ラナイノデアリマス、是ハ申上ゲマス迄モナク、相對的ノ軍備ト云フ意味カラ、英吉利ノ有テ居ル權利全部、亞米利加ノ有テ居ル權利全部、ソレゾレノ國ニ於テ行使イタストスレバ其處ニ自ラコチラノ方ニ或種類ノ缺陷ガ起テ來ルト云フコトハ言ヒ得ラレマス

ルガ、之ヲ全部行使シナケレバ、ソレニ應ジテコチラノ方モソレニ應ジ得ルト云フコトニモナリ得ルノデアリマスカラ、ソコデ外國ノ狀況ヲ見ルト申シマスノハ、即チサウ云フ意味ナノデアアル、ソレヲ一ツノ申上ゲマスト云フト、相當色々其處ニ箇條ガ起ルト考ヘマスガ、是等ノ點ニ付キマシテハ豫算分科會ニ於テノ懇談會ニ於テモ一通リ速記ヲ廢シテ申上ゲテ置キマシタヤウナ意味モアリマスル、即チ有テ居ル權利ハ是非トモヤラナケレバナラヌヤウニナリマスルカ、或ハ其中幾分ヤツテ、ソレデ國防上差支ナイト云フコトニナリマスルカ、或ハ有テ居ル權利ノ中デ融通ヲシテ宜イト云フコトヲ倫敦條約ニ認メラレテ居ル、所謂六吋巡洋艦ト驅逐艦ノ間ニハ一割ノ融通ハ認メラレテ居リマスカラ、此融通ト云フヤウナコトヲ用キタ方ガ實際ノ國防ノ上ニ有利デアルヤ否ヤト云フヤウナコトモ、矢張り考慮ヲ致シマスル必要ガアル、斯ウ云フヤウナコトニナリマスル結果ト致シマシテ、其内容ハ分テ居ルヂヤナイカト云フ井上男爵ノ御話デアリマスケレドモ、權利全部ト云フモノハ是レノモノデアアル、其中ドウ云フ點ヲ我國ハドウ云フ時期ニ斯ウシタラ最モ少イ經費ヲ以テ最モ有力ナル軍備ヲ用

意シテ國防ニ支障ナイヤウニ、ソレヲ按配シ得ベキカト云フコトガ最も大切ナ所デアリマス、即チソコニ考慮ヲ置キマシテ進ミツ、アリマスル次第デアリマスカラ、此第二次計畫、所謂第二次計畫ト云フモノノ内容ト云フモノモ其最上限ハ決マツテ居リマスケレドモ、實行ノ上ニ於キマシテ、ソレヲ行使スル量ト云フモノハ今日具體的計畫ノ無イ場合ニ申上ゲ兼ネル、斯ウ云フ意味ニナツテ居リマスル次第デアリマスカラ、サウ云フ意味ニ於キマシテ此度、是非必要トスルモノノ計畫ヲ立テ、サウシテ國防上必要ナル兵力ノ骨幹ト云フモノハ先ヅ漏レナクソコニ備ヘテ、之ヲ以テ當面ノ情勢ニ於テ國防支障ナシト認メマシタカラシテ保留財源ノ中カラソレヲ取りマシタ其餘剩ノ金ト云フモノハ、矢張り一方ニ於テ我が帝國トシテ必要ト認メテ居リマス減稅ノ方ニ振り向ケルコトヲ適當ト信ジマシタ次第デアルノデ、而シテ早晚必要デアル所ノ、其次ニ來ル計畫モ、ソレデハ財源ガ無クテドウスルノカト云フ御尋ニ自然ナリマス譯デアリマスガ、是モ幾度モ申上ゲ、昨日モ此席デ申上ゲマシタヤウニ、此度ノ計畫ハ十二年度カ終ルコトニナツテ居リマスガ、十二年度カラハソコニ艦ヲ造ルト云フコトダケ

ノ爲ニ六千万圓ト云フ財源ガ毎年用意ヲシテアルト云フコトニナツテ居リマスルカラ、ソレヲ昭和十一年度以前ニ於テ新シイ計畫ヲ立テマス、其若干ソコニ重複ヲスル其財源ト云フモノガ見積テナイ、併ナガラソレハ毎度申上ゲマシヤウニ、首相代理モ大藏大臣モ言明イタシマシタヤウニ、一ツノ計畫ヲ立テ國防上ソレヲ是非トモ遂行シナケレバナラヌト云フ場合ニハ、何トデモシテ有ラユル手段ヲ以テ財源ヲ……經費ヲ調節シテ其求メニ應ズル決心デアル、斯ウ云フノデアアル、私ハソレヲ十分確信シテ居リマスル次第デアリマス、大體其關係ニ付テ井上男爵ノ御答ニナリマスト存ジマスルガ、御尋ノ點ハ至極御尤ト思ヒマスガ、大體今迄ト同ジヤウデアリマスルケレドモ、以上ヲ以テ御答ト致シマス

○男爵井上清純君 此事ニ付キマシテハ豫算委員會竝ニ分科會ヲ通ジマシテ海軍大臣カラ只今ノ御意思相應ノ御答辯ハ得テ居リマシテ、其結論ダケヲ今日申上ゲテ、其材料ニ依テ質問ヲ……先ノ御答ヲ求メル爲ニ御尋ネシタノデアリマスルケレドモ、矢張り此御答辯ノ範圍ガ、豫算委員會ノ時ノ御答辯ノ範圍ニ出ナイノデアリマス、私ハ普通ノ場合ニ於キマシテハ、サウ云フ先ノ

財源マデモ政府ニ色ミ追究スル考ハ持タナイノデアリマス、併ナガラ今回ノ補充計畫ハソレトハ大變趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、即チ倫敦條約ヲ結バレテ、ソレカラ來タ所ノ國防ノ缺陷ト云フモノ、其缺陷ハ總括的ニハ先ヅ要求ヲ滿シテ居ルケレドモ、其編制セラル、所ノ兵種ノ不足カラ、豫定ノ國防方針ニ基ク作戰計畫ヲ遂行スル上ニ於テ兵力量ノ不足ヲ感ズル、斯ウ云フヤウナ、素人ニハチヨット何處ニ缺陷ガアルノカ分カラヌヤウナ御言葉ヲ御用ヒニナツテ居ルノデアリマスルガ、一體、是ハ何ヲ意味スルノカト言ヘバ、日本ノ國防方針ハ變ラナイノデアアル、ソレニ基ク所ノ作戰計畫モ長イ間演習等ニ於テ實驗シタモノデアツテ、是亦變ヘテハナラヌノデアリマス、今ハ條約上非常ニソレヲ遂行スルコトニ不便ニナツケレドモ、矢張り既定ノ作戰計畫ハ其儘保持シテ行カナケレバナラヌ、ソレカラ見ルト……其方針ニ依ツテ考ヘテ見ルト、ドウモ配合スル所ノ八吋巡洋艦ト潜水艦ノ量ガ少イ、之ヲドウカシテ補ハナケレバドウモ既定ノ計畫ヲ其儘遂行シテ行クコトハ困難ニナツテ來テ居ル、是ハ素人ニハ分ラヌケレドモ、海軍ノ用兵上非常ナ困難ナル位地ニ陥レシマツタノデアルト云フコト

ヲ、海軍大臣ハ十分ニ御承知ニナツテ居ラルル筈デアリマス、而モ冒頭ニ私ガ申上ゲタヤウニ、總括的ニハ變ラナイノデアリマスカラ、理由ハ何等豫算面ニハ變テ來ナイノデアリマス、即チ編制サレタ兵種ニ不足ガ生ジテ居ルノデアリマス、素人騙シニハ大變ニ都合ガ宜イ條約デアアルノデアリマス、私ハ此間モ豫算委員會ニ於テ申シタノデアリマスガ、今日ノ軍備ノ状態ト云フモノハ最小ナルモノヲ以テ最大ナル效力ヲ發揮スルト云フコトガ軍備ノ要諦ダナケレバナラヌノデアリマス、最モ經濟的ナル軍備ダナケレバナラヌノデアリマス、殊ニ亞米利加ト云フヤウナ大富國ヲ向フニ廻シテ日本ノ海軍ガ如何ナル軍備ヲ整備シナケレバナラヌカト云フコトハ大キナ問題ダナケレバナラヌノデアリマス、幸ニ日本ニ於テハ軍令機關ト云フモノガアリマシテ、誠心誠意全ク國家本位ニ立ツテ、サウシテ案畫サレテ始メテ現ハレタモノガ、彼ノ名高イ所ノ帝國ノ釣合ヒノ取レタ所ノ艦隊ニナツテ居ルト思フノデアリマス、此現ハレタ所ノ帝國艦隊ハ最モ經濟的ナル國防デアルト云フコトニ於テハ日本ノ人ヨリモ世界ノ人ガ知テ居ルノデアリマス、ソレハ何デサウ云フモノガ出來タカト言ヘバ、三大原則ヲ基礎ト

シテ組立テラレタモノデアアルコトハ申ス迄
モナイコトデアリマス、此度倫敦會議ニ五
國ガ御集リニナツタケレドモ、何レノ國ト雖
モ、日本ノ如クニ斯ンナ三大原則ノヤウナ
モノヲ持テ行ク國ハ一國モ無カッタノヲ
見マシテモ、如何ニ我ガ海軍ノ軍令機關ガ
有效ニ活動シテ居ラカト云フコトヲ、國
民トシテ知ラナケレバナラヌ大事ナ要點
デアッタノデアリマス、其大事ナ要點ヲ破
ラレテシマッタノデアリマス、何ノ爲ニ破
ラレタカ、誠ニ私ハ政治家ノ不明ノ爲ニ破
ラレタト言ハナケレバナラヌデアリマ
ス、斯ウ云フ一國ノ軍備ヲ、總括的ニハ一
ツモ手ヲ觸レズシテ、内容ノ編制ヲ變ヘル
コトニ於テ、其勢力ヲ低下スルコトガ出來
ルト云フ新戰術ガ、アノ倫敦ノ平和會議
ニ於テ、無血戰爭ニ於テ、世界平和、人
類協調ノ名目ノ下ニ於テ行ハレタト云フコ
トハ恐ルベキコトデアアルト私共ハ考ヘナイ
譯ニハ參ラヌデアリマス、而モ國民ハ其
事ヲ知ラナイ、サウシテ遂ニ此條約カラ招
致サレタ所ノ此國防ノ缺陷ヲ何デ補フノカ
ト、其途スラモ考ヘルコトノ出來ナイヤウ
ナ工合ニ海軍ハ陷レシマッタノデアリマ
ス、私ハ一大危機ガ海軍ニ到來シタモノト
叫バナイ譯ニハ參ラナイデアリマス、此

點ハ十分ニ海軍大臣ハ痛切ニ御存ジデナケ
レバナラヌト思フ、ソコニ於テ軍事參議官
ノ會議ガ起リタ、或ハ軍令部長、海軍大臣ト
次ギノ御辭職ニナツテシマッタノデアリ
マス、皆全海軍ノ將士ノ精神ト云フモノハ
全ク覆サレテシマッタト云テモ過言デハナ
イヤウナ、大キナ波紋ヲココニ投ジタノデ
ハナカッタノデアリマセウカ、普通ノ補充計
畫デアリマセウ、今日ノ補充計畫ト云フ
モノハ、斯ウ云フ一大原因カラ發シタ所ノ
計畫デアリマシテ、此第一次、第二次ト、
斯ウ御分ケニナツテ居ルノガ不思議デア
ル、別ニ政府モ第一次、第二次トハ初メハ仰セ
ニナラナイケレドモ、是ハ不可分ナモノデ
アリマシテ唯財政上、或ハ内閣ノ都合上、
二ツニ御分ケニナツタ、サウシテ片方ノ方ハ
蔭ニ隠サレテ居テ、サウシテ第一次計畫ヲ
以テ、先ツ骨幹ガ宜シイノデアアルト云テ中
外ヲ誤魔化サレテ居ルコトハ分ルノデアリ
マス、若シモ三億七千万圓ガケデ以テ、此
國防ノ缺陷ガ救フコトガ出來ルナラバ、何
ヲ苦シンデ、アンナ大騷動ヲ始メマセウカ、
始メタ人ハ誠ニ天下ニ向テ詫ビナケレバ
ナルマイト思フノデアリマス、サウシテ私
ハ詫ビル必要ハナイ、ソレダケ大騷動スベ
キモノデアッタラウト思フノデアリマス、其

大騷動シタ所ノ國防ノ大缺陷ヲ、僅カ巡洋
艦四隻、驅逐艦四隻、機械水雷敷設艦一隻
ダケデ以テ補ヒ得ルト云フコトデアアルナ
ラ、餘程海軍ノ首腦ノ御方ト云フモノハ、
事理ヲ辨ヘナイ人ト言ハナケレバナラナイ
ノデアリマス、天下ノ物笑ヒトナラナケレ
バナラナイ、アレダケノ騷動ヲ起シテ、内
閣モ此爲ニドノ位惱シダカ分ラナイ、國民
モ亦非常ニ茲ニ疑惑ヲ注イダノデアリマ
ス、第一次バカリデハ足りナイノデアリマ
ス、一體海軍ノ初メノ計畫ハ、仄聞スル所
ニ依ルト、十億萬圓カカルト云フデアリマ
ス、私ハ十億萬圓ノ補充計畫ヲ御立テニナ
タナラバ、ドウヤラ斯ウヤラ、初メテ此缺
陷ハ免レルモノダト私モ考ヘタノデアリマ
ス、非常ニ飛行機ヲ多數ニ造ラヌ限りニ於
テハ、到底此國防ノ缺陷ヲ救フコトハ不可
能デアリマス、又潜水艦ノ缺陷ヲ、飛行機
ノ如キモノヲ以テ完全ニ補ヒ得ルコトガ出
來ナイコトハ、其性質ガ違フカラデアリマ
ス、サウ云フコトハ素人ニ於テモ此頃ハ初
メテ知ルコトガ出來タノデアリマス、我帝
國ハ誠ニ世界ニ類例ノナイ所ノ戰略的好位
地ヲ占メテ居ル所デアリマス、其好位地ヲ
利用シテ行クナラバ、軍費ノ經濟化ト云フ
コトハ出來タノデアリマス、茲ニ政治家ガ

著眼シテ、サウシテ大局ヲ誤ラヌヤウニセ
ラレタナラバ、是ハ斯様ナ不利益ナ條約ヲ
結バナシテ濟シタノデアリマスガ、此條約
ノ結果、其天與ノ戰略的好位地モ利用スル
コトガ不可能ニナツテ來テ、即チ近海作戰ヲ
餘儀ナクサセラレタ結果、ドウモ敵ノ空襲
ヲ恐レナイ譯ニハ參ラナクナツタノデアリ
マス、敵ヲ近ク受ケテハ危險デアリマス、
何シテモ島國デアリマシテ、而モ東海ノ方
面ニ於テ重要ナル都市、工業地ガ散在シテ
居ルノデアリマスカラ、敵ヲ近ク受ケテハ
非常ニ危險デアリマス、或ハ二千哩位ノ距
離デ之ヲ守ラヌ限りハ、帝國ハ非常ニ危險
デアアルト我々ハ考ヘナイ譯ニハ參ラヌノデ
アリマス、ドウ云フ譯デ近海作戰ヲ餘儀ナ
クサレタカト云ヘバ、潜水艦ノ缺乏デアリマ
ス、八吋砲巡洋艦ノ缺乏デアリマス、此不
足ヲ何物ヲ以テモ補フコトガ出來ナイ、只
今海軍大臣ハ六吋砲巡洋艦デ以テ補フト云
フコトヲ言ツテ居ラレマシタガ、此六吋ト云
フモノニ對シテモ、分科會デ詳シク申上ゲ
マシタガ、六吋ヲ今マデ持ツテ居ラナカッタ
ノデアリマス、日本ノ海軍ハ五吋半ノ砲ヲ
持ツテ居ラタノデアリマスカラ、今新タニ六
吋砲ヲ御造リニナツテ、亞米利加ノ八吋砲ニ
拮抗スルヤウナコトガ出來ルトハ、サスガ

日本人トシテモ信ジ得ラレナイノデアリマス、六吋砲ノ數ヲ増セバ、八吋砲ノ數モ亦増スト考ヘナケレバナラスノデアリマス、而モ現在ノ所ニ於テハ、其射程ニ於テ五千「メートル」ノ開キガアリマス、到底八吋砲ニ對シテハ、六吋ト云フモノハ拮抗ガ出來ナイノデアリマス、此點ニ於テハ財部大臣モ非常ニ間違エタ考ヲ持テ居ラレタヤウデアリマスガ、故意ニサウ云フコトヲ仰シヤルドラウト思ヒマスケレドモ斯ウ云フコトニ付テハ、戰術ノ専門家ノ言ニ從ハナケレバナラスノデアリマシテ、私ハ暫ク沈黙シナケレバナラスノデアリマスガ、素人考ニ於キマシテモ、二吋ノ差デアリマスケレドモ、其砲口勢力ニ於テ三倍アル所ノ八吋砲ニハ、到底拮抗ガ出來ナイト考ヘルノデアリマス、而モ將來ノ射距離ハ三萬「メートル」内外位デアラウト思ヒマスル、恰モ「ライオン」ノ前ニ鼠ガ出タヤウナモノデアリマシテ、何等戰局ヲ左右スベキモノデハナカラウト思ヒマス、幾ラ六吋砲巡洋艦ニ改造ヲ御加ヘナサイマシテモ、到底主力艦ヲ補フ所ノ目的ニハ副ハヌモノデアアル、單ニ八吋砲巡洋艦ニ向フコトニ付テハ、幾ラカ其目的ヲ達スルコトガ出來マセウケレドモ、我々ノ目的ハサウデナイノデアリマス、

六割比率ノ戰艦ノ戰爭ヲ補フ爲ニハソレハ不可能デアラウト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付テハ海軍大臣ハ詳シク御存ジデアリマシテ、定メテ私共以上ニ之ヲ憂ヘテ居ラレカト思フノデアリマスガ……ニモ拘ハラズ御答辯ハ少シモ其域ヲ出ナイデ、恃ムベカラザル所ノモノヲ特シテ居ラレルヤウデアリマス、一體倫敦條約ニ於テ權利ヲ結バレテ、其權利ヲ行使サレテ初メテ條約上ノ兵力量ト云フコトニナラナケレバナラスノデアリマス、全部ヲ行使サレテモ未ダ足りナイト自分デ自ラ仰セニナッテ居ルノニモ拘ラズ、其權利ヲ行使スルコトガ殘ッテ居ルモノヲ、ソレハ他ヲ見テカラ計畫シヤウデヤナイカト、斯ウ仰セニナルコトノ不合理的ナルコトハ言ハズトモ知レタコトダラウト思フノデアリマス、普通ノ補充計畫トハ趣ヲ異ニシテ居ル、其全部ノ條約ノ權利ヲ行使シマシテモ、未ダ國防ニハ缺陷ヲ生ジテ居ルノダ、斯ウ云フコトヲ仰セニナッテ居ル、其行使サルベキ所ノ權利ノ幾分殘ッテ居ル、具體的ニ申シタナラバ、ソレハ何ガ殘ッテ居ルカト云ヘバ、驅逐艦ノ六艘、斯ウ云フモノハ或ハ戰時急造ガ出來マスカラ後デ宜カラウト思フノデアリマス、併シ航空母艦、是ハ華盛頓條約ノ權利デアリマスル

ガ、一万二千噸バカリガ殘ッテ居リマス、之ヲ何故ニ先ニ御造リニナラスカ、恐ラク是ハ維持費ガ非常ニカ、リマスカラ、其點ニ於テ後廻シニサレタモノダト思フノデアリマス、ソコデ世界ノ海軍カラ影ヲ沒シタヤウナ水雷艇ノヤウナモノマデ引ッ張り出サレ、或ハ動力ナイ潜水艦ノヤウナ、或ハ機械水雷ノヤウナモノデ、國防ヲ完ウセラレヤウトセラレル所ヲ見ルト、全ク窮セル所デアリマス、斯ウ云フ工合ニ平時ノ戰ニ於テ、手ヲ挽ガレ、足ヲ挽ガレテシマッタナラバ、日本ノ海軍ニドシナニ智謀ノ將士ガ居リマシテモ、或ハ勇敢ナル將校下士卒ガ居ッテモデス、國防ヲ完ウスルコトガ出來ナクナルドラウト思フノデアリマス、此海軍ノ戰爭ハ申ス迄モナク機械ノ戰爭デアリマスカラ、サウ精神力ヲ以テ其缺陷ヲ補充コトハ出來ナイノデアリマス、或ル程度ハ機械力ニ依ッテ左右サレテシマフノデアリマス、一度太平洋ノ洋心ニ於テ決戰ガ行ハレタ場合ニ於テ、不幸ニシテ大敗シタナラバ、帝國ハ其時ニ敗滅スルノデアリマス、斯ウ云フ恐ルベキ所ノ缺陷ヲ其儘ニサレテ、航空母艦ヲ御造リニナラナイ、機械水雷ノ數設艦モ二艘殘ッテ居ルノモ御造リニナラナイ、サウ云フモノガチャント條約面ニ於テ

モ第二次補充計畫トシテ現ハレナケレバナラスモノデアアルコトハ、條約ヲ見タモノニハ直グソレガ映ルノデアリマス、ソレヲ未ダ不明デアルカラ、財源ハ取ラヌデモ宜イ、斯ウ仰セニナルヤウナコトデアアルナラバ、將來第二次計畫ハ御造リニナラヌト云フコトヲ茲ニ明言サレタ宜カラウト思フノデアリマス、ソレナラバマダソレデ宜イノデアリマス、第二次計畫トシテ造ルカ造ラヌカ、誠ニ疑問デアアル、又濱口總理大臣御自身ハ、此事ハ實現スルノデアルト云フ御捺印迄モ押サレテ居ラレル所ヲ見マスルト、他日軍部ト内閣ノ間デ以テ御評議ガ決マッテ國民モ議會モ何ニモ知ラヌ中ニ、チヤントサウ云フ計畫ガ成立ッテ、急ニ我々ニ向ッテ協贊ヲ御求メニナリマシテモ、其時ハモウ財源ガナイノデアリマスカラ、我々ミトテモ、ソレハ大變ト思ヒマシテモ、モウソレハ遲イノデアリマシテ、或ハ協贊モシ悪クナルカモ分ラヌト考ヘマスカラ、海軍當局者ガモウ第二次計畫ハ打ッチャタモノデアルト云フコトデアリマスレバ、我々ハ是以上何ヲカ心配スルコトハナイノデアリマス、必要ガアッテ、唯政府ノ關係上ソレハ今言ッテハ工合ガ悪イカラ言ハナイダケデアルト云フコトデアリマスレバ、私ハ飽ク

ナ噸數デアリマシテ、之ヲ今直グ造ルト云フコトハ、餘程考慮ヲ必要トスルト同時ニ、一方ニ於テハ龍驤ト云フモノヲ今拵ヘツツアリマシテ、今マダ進水シマセヌ、來月進水スルト云フ立場ニアルノデアリマスカラ、斯ウ云フモノハ今暫ク殘シテモ宜カラウ、斯ウ云フヤウナ意味モ含ンデ居リマスシ、機械水雷ヲ敷設スル五千噸ノ船ニ付キマシテモ幾度カ申上ゲマシタヤウニ、今八重山ト云フ船ノ建造中デアリマシテ、今度ノ計畫ニ於テ一艘拵ヘルノデアリマスカラ、他ノ一隻ハ今暫ク後ニヤル方ガ却テ適當デアラダラウト云フ意味ニ於テ殘タト云フ次第デアリマシテ、第二次計畫ト云フモノノ内容ハ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、權利トシテハ決マツテ居リマスル……大體決マツテ居リマスルケレドモ、其内容ハドウ云フモノヲヤラウト云フコトニ付キマシテハ、マダ具體的ノ計畫ヲ決メテ居ラヌト申上ゲルヨリ外ハナイノデアリマスカラ、是ハ政策上……第一次第二次一緒ニヤラナケレバナラヌノヲ、所謂内閣ノ政策ノ上カラ之ヲ二ツニ分ケテ、サウシテ第二次ハヤツテモ宜イ、ヤラヌデモ宜イト云フヤウナ風ニ見セテ居ルト云フヤウナ事柄ハ毛頭ナイノデアリマス、幾度カ繰返シマスマヤ

ウニ、第二次ト云フヤウナ意味ノ次ノ計畫ト云フモノモ、是ハ昭和十一年度以前ニ之ヲ開始イタシマスル必要ハ、十分當局トシテモ認メテ居リマスル次第デアリマス、財源ノコトニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウナ意味デ、今度ノ計畫トソレカラ其後ノ年度ノト、若干重ナルト云フコトニ付テノコトハ、何トデモ方法ヲ立テテ、次ノ計畫ヲ起シ得ラレルモノト確信ヲ致シテ居リマス次第デアリマス

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 皆様ニ申上ゲマス、只今本會議デハ豫算案ニ對スル質疑ノ通告ガ終リマシテ、藤村男爵ガ御演說中ダト云フコトデアリマス、豫算案ハ特別會計ト本豫算ト別々ニ採決ヲ致サレマス、ソレデモ直キ豫算案ガ採決ニナルサウデアリマスカラ、是デ休憩ヲ致シマスカ、或ハ散會ヲ致シマスカ、御諮リ致シマス

〔「休憩」又「散會」ト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵柳澤保惠君) 如何デゴザイマスカ

〔「散會々々」ト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵柳澤保惠君) ソレデハ本日ハ是デ散會イタシマス、明日ハ午前十時ニ始メマス

午後三時五十二分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵柳澤 保惠君
委員 子爵梅小路定行君
子爵大久保 立君
子爵大河内輝耕君
子爵裏松 友光君
水野鍊太郎君
伊澤多喜男君
男爵小畑大太郎君
男爵黒田 長和君
男爵井上 清純君
片岡 直温君
藤田 四郎君
湯地 幸平君
後藤 文夫君
大橋新太郎君
尾崎元次郎君
田中 一馬君
小林 暢君
森田 福市君

國務大臣

海軍大臣 男爵安保 清種君

政府委員

大藏省主税局長 青木 得三君
專賣局長官 平野 亮平君